

「郷土史研究家・資料収集家たちの遺した資料」開催しました！

2014.10.21 (レポーター 下向井祐子)

文書館の収蔵文書には、郷土史研究家や資料収集家によって集められたコレクション的資料群が数多くあります。その収集の動機や経緯は、歴史研究や趣味、地域・郷土への愛着などさまざまですが、収集された文書や資料は、彼らの手によって整理・分類されて、今に遺されてきました。また彼らはその資料を活用して、市史や郡史など郷土史関係の著作物も数多く刊行しています。今回の収蔵文書の紹介展では、「郷土史研究家・資料収集家たちの遺した資料」と題し、青木茂氏・永井弥六氏・小都勇二氏・飯田米秋氏・山田迪孝氏のコレクションとその活動にスポットを当てて展示しています。その一端をご紹介します。



青木茂氏旧蔵文書

青木茂氏は歴史研究者で、尾道の古文書を調査・収集し、尾道市史などの編纂を手がけました。展示している尾道の十四日町の年誌帖は、江戸中期から幕末まで約150年間の町の記録で、尾道町の町年寄に代々引き継がれ、尾道の豪商だった橋本家に残されていたものです。

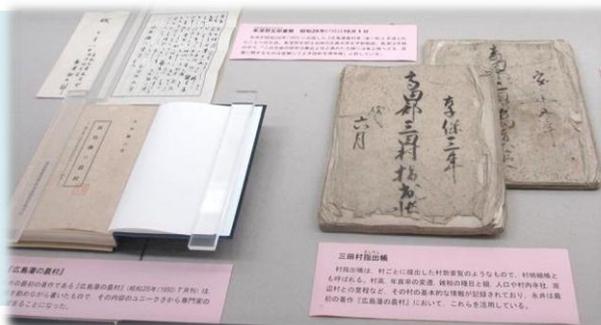


富くじ(永井彌六氏収集文書)

禁制とされていましたが、各地で盛んに行われていました。富くじには当たりを念じた戯言なども書き込まれており、一攫千金を夢見た庶民の気持ちがうかがえます。

永井彌六氏収集文書

永井彌六氏は高田郡三田の郷土史家で、三田村長・白木町長を務めながら、近世農村の研究を手がけ、『広島藩の農村』など多くの著作があります。また、古文書類も収集していました。展示している「三田村差出帳」には、村高、人口、村内の寺社など村の基本的な情報が記されています。



おつ 小都勇二資料

小都勇二氏は高田郡吉田町の郷土史家で、中国新聞社に勤務しながら吉田郷土史調査会を結成し、郷土資料を綿密に調査し、毛利元就と郡山城跡についての著作が多数あります。長年、吉田郷土資料館長も務め、『高田郡史』の編纂を手がけました。「寺院・神社関係資料」は地域の寺院・神社を調査した際に収集・作成されたもので、高田郡史編纂の基礎資料となっています。



飯田米秋資料

飯田米秋氏は東広島市八本松の郷土史家で、「国郡志御用二付下調べ書出帳」など古文書を筆写・コピーして研究用資料として多数遺し、『広島県川上村史』・『賀茂郡史』などを執筆しました。



みちたか 山田迪孝文書

昭和20年代から30年代の観光パンフレット類のコレクションです。カラフルなイラストや写真などから当時の観光事情や世相がうかがえます。こうしたパンフレットは、まとまった形で残されることが少ないため、現在では貴重なコレクションとなりました。



展示されているのは、収集されたコレクションのごく一部です。昨年、小都勇二資料の整理を担当しましたが、段ボール箱に詰められた約5000点の資料は内容ごとに丁寧にファイルされており、年代やトピックごとにまとめられた新聞のスクラップや高田郡史編纂のための膨大な手書きの原稿類に圧倒されました。様々な経歴を持つ郷土史研究家・収集家たち、そのコレクションの内容は多岐にわたっており、遺されたコレクションからは、彼らの資料収集へのあふれる熱意が伝わります。資料群ごとの「アーカイブズの個性」と、歴史資料を保存し後世に伝えるために彼らが果たした役割の大きさを感ぜながら、展示をご覧いただければと思います。